

コスタリカ内政・外交定期報告（2022年12月）

2022年12月の当国内政・外交主要事項を以下のとおり報告申し上げます。

【要旨】

内政

- 1 政府によるアルバロ・ラモス前社会保険庁（CCSS）長官と5人のCCSS理事会役員への刑事告発の決定
- 2 政府による大量の偽名のSNSを使った宣伝工作疑惑

外交

- 1 チャベス大統領のドミニカ共和国訪問
- 2 クリストファー・ドッド米統領特別顧問（米州担当）のコスタリカ訪問

【各論】

内政

- 1 政府によるアルバロ・ラモス前社会保険庁（CCSS）長官と5人のCCSS理事会役員への刑事告発の決定

(1) 12月7日、政府は、閣議でアルバロ・ラモス前社会保険庁（CCSS）長官と5人のCCSS理事会役員に対し、9月8日にCCSSの取締役会が承認した63,000人の従業員の昇給に関して、利益相反の疑いで刑事告発を行うことを決定した。

(2) 同決定は、12月7日に実施された記者会見において、チャベス大統領自身から発表された。また、チャベス大統領は、現職の5人のCCSS理事会役員の即時停職をおこなう旨発表した。

- 2 政府による大量の偽名のSNSを使った宣伝工作疑惑

(1) 12月28日、フェイスブックでマスコミ攻撃及び政府の支持を行ったアカウント「ピエロ・カランドリ」の運用者だったとマスコミに述べているアルベルト・バルガス氏は、マユリ・オルテガ大統領地方連絡担当官から10万コロンを受け取り（約2万円）、与党の社会民主進歩党（PPSD）を攻撃し、チャベス大統領と大統領の支持者が結党した新党の民衆主権党（PPS）を持ち上げるよう指示を受けていた旨、テレティカのニュース番組で証言した。オルテガ氏は本年の大統領選挙でチャベス陣営の副選対委員長を務め、現在は民衆主権党の暫定委員長を務めている。

(2) また、バスケス氏は、これまでに、チャコン保健大臣からも新聞記者を攻撃するよう仲介人を通して指示を受け現金を受け取っていた旨述べている。チャコン大臣は現金を払ったことは認めているが、保健省の仕事の評価する書き込みをしてもらうために私費で払

ったとしている。

外交

1 チャベス大統領のドミニカ共和国訪問

(1) チャベス大統領は、12月7日～9日の日程でドミニカ共和国に滞在し、第56回中米統合機構(SICA)首脳会合への出席等を行った。第56回SICA首脳会合において、チャベス大統領は、アビナデル・ドミニカ共和国大統領を含めた他7名の出席者とともに、同首脳会合の成果文書を採択した。

(2) また、ドミニカ共和国滞在中、チャベス大統領は、アビナデル・ドミニカ共和国大統領、ブリセーニョ・ベリーズ首相との間でそれぞれ二国間会談を行った。

2 クリストファー・ドッド米大統領特別顧問(米州担当)のコスタリカ訪問

(1) 12月14日、クリストファー・ドッド米大統領特別顧問(米州担当)がコスタリカを訪問し、チャベス大統領との会談を行った。

(2) 同会談後のチャベス大統領の発表によると、米国の政策における新しい傾向により、麻薬密売に対するコスタリカ取組の一環として、また自由と民主主義を尊重するものとして、コスタリカがバリューチェーン及びサプライチェーンを確保することを可能にする。

(3) また、チャベス大統領は、「バイデン米大統領及びコスタリカ共和国大統領は来年の民主主義サミットの共催者であるため、それ(バイデン大統領のコスタリカ訪問)を調整する必要がある。我々はバイデン大統領に、民主主義サミットの前にコスタリカを訪問するよう招待した」旨発言した。一方、チャベス大統領は、自身の米国訪問の可能性については否定した。

(了)